

市と市民への メッセージ

平成17年度

まちづくり会議わいわいGOBO

はじめに

平成18年、トリノ五輪で金メダルを一つ獲得し、WBCで野球世界一となって日本中が酔いしれる3月末、ここ御坊市ではまちづくり会議わいわいGOBOが4年間の活動に幕を下ろすことになりました。

振り返ってみれば4年前、市民と行政とのパートナーシップということで市の関係団体や公募の委員を募り、御坊をより良くするためのアイデアを出し合い、提言したり、委員自身も、実践活動をする参加型の会議でした。

委員たちは、自分たちの住んでいるまちを今以上に住みやすいまちにするために知恵と力と汗を出し合い、意見をまとめながらできるところから実践し活動してきました。過去3年間は活動報告書として市長に手渡し、活動の成果を報告してきました。

この度、第4期の提言書を作成するにあたって、委員の御坊を思う気持ちの大きさには計り知れないものがあり、あふれる思いを短く集約することの難しさを感じております。本来ならば、実現可能、不可能にかかわらず、4年間の会議で出てきたアイデアすべてに価値があり、市民の声として受け止めていただきたいのは、山々ではありますが、特に今年度力を入れて取り組んできたことを、市と市民へのメッセージという形でまとめさせていただきました。

平成18年3月27日

まちづくり会議わいわいGOBO

あいさつ運動の推進

子ども達の安全、安心について、学校・P T A・地域・老人会等の各種団体、ボランティアが協力して取組みましょう。

ソーラン踊りでまちおこし

「子ども達を元気に！御坊を元気に！」をテーマとした「第1回いこらD Eフェスティバル」に市民皆さんで参加しましょう。

地域資源の発掘（御坊の良い所を探す）

- ・マップを作りましょう。
- ・語り部を養成しましょう。

きれいなまちづくりの推進(生ゴミの堆肥化)

生ゴミ堆肥化、ゴミの減量化、クリーン作戦、下川の美化などきれいなまちづくりを推進しましょう。

活動報告書

平成17年度

まちづくり会議わいわいGOBO

あいさつ運動の推進

これまでの取り組みと成果

奈良でおきた誘拐殺人事件や広島でおきた殺人事件等、子どもを取り巻く暗い話題が世間を騒がせています。事件後には、地域で子ども達を見守る運動がマスコミ等で盛んに報道されています。

安全で安心して通学できる環境づくりとして、また日常、家庭や地域、学校で明るく元気にあいさつする習慣を身につける一つのきっかけになればと思い、平成15年度からあいさつ運動を実施してきました。平成16年度には誰にでも分かりやすく定期的に行なえるよう毎月第1月曜日を「わいわいGOBOのあいさつ推進日」とし、会員と地域老人会、補導委員会等の協力のもと、市内各小・中学校の校門に立って子ども達に「おはようございます。」と声かけ運動に取り組みました。

地域の老人会、補導委員会、ボランティアの協力が得られ、あいさつ運動の輪が徐々にではありますが、広がっています。また、地域の中でも自分からあいさつしてくれる子どももあり、地域でのつながりや絆を感じる事が出来ました。

今後の課題

子どもたちを取り巻く環境は、著しく変化しており、子どもたちが安全で安心して生活するためには、学校、PTAのみならず、地域、老人会、補導委員会等の各種団体、ボランティアなどの連携による地域ぐるみの安全・安心に対する取り組みが必要と考えます。

今後期待される効果

- ・各種団体が連携して、地域ぐるみで安全・安心の取り組みを進めることにより、登下校時、子ども達が犯罪に巻き込まれないといった抑止効果につながります。
- ・高齢者があいさつ運動、地域の安全・安心に参加することにより、高齢者の活躍の場が創出されます。
- ・子どもから高齢者まで顔見知りになれば、現在、希薄となってきたと言われるコミュニティの再生が図れます。

ソーラン踊りでまちおこし

これまでの取り組みと成果

北海道で学生が立ち上げた「YOSAKOIソーラン」が話題となり、本場、高知県でも「よさこい祭り」で観光客誘致をし、和歌山県内各地でもソーラン踊りを主としたイベントでまちおこしが行なわれています。

子どもたちが熱中出来るもの、有り余ったエネルギーが発散できるものは、を発想に「ソーラン踊りを通じてまちづくりできないか。」と取り組んできました。結果、御坊独自のソーランの制作に取り掛かり「いこらDEソーラン」が出来上がりました。

詞の中には、宮子姫、安珍清姫、湯川直春、亀山城、御坊まつり、お御堂（日高別院）花の産地などを入れて、御坊市の歴史、文化、産業等をPRし、華やかで躍動感ある振り付けも出来ました。

市民の皆様にも踊ってもらうため講習会を実施し、ソーランサークルも結成され、市制施行50周年記念式典、宮子姫まつりで、「いこらDEソーラン」が披露され、広く市民に知ってもらうことが出来ました。

レッスンビデオ、CDを制作し、委員が各小・中学校へ出向き運動会、文化祭等で取り組んでもらえるよう普及活動を行った結果、野口小学校・湯川中学校では運動会や敬老会の発表等に取り組んでもらえました。

「子どもたちを元気に！御坊を元気に！」という趣旨に賛同した市民が、実行委員会を立ち上げ、本年4月23日には、御坊小学校を会場にソーラン踊りを中心としたイベント「いこらDEフェスティバル」を開催予定です。

今後の課題

- ・初めての試みなので、まちのイベントとして浸透していない。
- ・ボランティアスタッフの確保。

今後期待される効果

- ・まちづくりの起爆剤。
- ・自立したまちづくり。
- ・商店街との連携により商店街が活性化。

地域資源の発掘（御坊の良い所を探す）

これまでの取り組みと成果

御坊の人が他県の人から「御坊ってどんなまち？」「何があるの？」と問われて口ごもる人が多いよう思われる。

「ごぼう」という言葉からは、「寺内町」、「古い町並みが残るまち」、「昔からの古い物が沢山残っているまち」、「玉手箱の蓋を開けるよう何かわくわくする気持ちを起こすまち」など、連想して欲しいものです。

これまで市内の探索マップ作りをテーマに講演会（御坊の魅力）、まちかど発見散策ウォーク（旧御坊町、湯川町小松原）等、市民の参加を募って行なってきました。会員には、県の語り部として登録されている方もおり、「こんな歴史があったなんて発見」、「普段、何気なく歩いている場所や家並みの説明を聞くことでわくわくする」などの意見を頂きました。

また、会員での視察研修を寺内町に絞り、貝塚御坊・富田林御坊を語り部の方に案内をして頂き研鑽を深めました。地域を知っている方（語り部）は、皆、少し自慢気にまちを紹介してくれていたのが印象的でした。会員からは、「イメージが膨らむまちづくりが良い。」「市全体を紹介するのではなく、一部分、例えば「寺内町マップ」のようにまとを絞り、地図作りをし、町並みを紹介としては。」といった意見が出ました。

他、紀州鉄道の歴史等会社の方と意見交換を行ないました。

今後の課題

- ・中心となるマップ作り（ボランティアや高校生・大学生の活用）
- ・語り部の養成（養成講師・歴史家・現役語り部の活用・和歌山大学との連携語り部養成・シルバー人材や団塊の世代の活用）

今後期待される効果

- ・御坊市のイメージアップ。
- ・観光客の増加。
- ・高齢者の活用で生き甲斐を生む。
- ・紀州鉄道とのリンク（紀州鉄道ファンクラブの誘致、御坊のお土産を系列ホテルで販売）
- ・商店街とのリンク（お土産品・食べ物の紹介）

きれいなまちづくりの推進（生ゴミの堆肥化の推進）

これまでの取り組みと成果

ゴミ問題（きれいなまちづくり）をテーマに、平成14年から種々な取り組みを行なってまいりました。「クリーン作戦」と銘打ってのゴミ拾い（日高川堤防・御坊駅前・学校周辺等）、「ゴミの行方ツアー」と銘打っての御坊広域清掃センターの見学、滋賀県甲賀市を訪れ、取り組みについて視察研修を行ないました。

また、市役所環境衛生課職員を講師に招いて「6種分別の現状について」の講演を受けました。「市で排出されるゴミの総量は平成16年度で1万1009トン、処理費が5億778万4517円、いかにゴミの量を減らし、処理費の削減につなげるかが大きな課題である」と説明を受け、「生ゴミは全体の30%を占め、水分を除くと4.7%にも下がり、各家庭で生ゴミを出す前に、ぎゅっと絞れば、全体で数千トン減り、処理量が削減できる」とのことでした。

その後、中央公民館で「環境講演会」を開催しました。串本町で生ゴミ分別に取り組んでいる方からは、生ゴミから作った堆肥を販売したり、生ゴミを資源として活用することで、ゴミ問題の解決と農業振興を結びつける立案をするなどの活動報告を受けました。一方、市内でも生ゴミの堆肥化に取り組んで和歌山県環境大賞を受賞した「ふるさと椿会」のメンバーの方からも実績報告を受け、今後の活動の参考としました。

現在では、生ゴミの堆肥化をマニュアル化し、会員と「ふるさと椿会」が二人三脚で町内会や婦人会等を中心に説明会を開催し活動を続けています。

今後の課題

生ゴミを堆肥化することで、少しでもゴミの量が減ることは、喜ばしいことであるが、出来た堆肥の使い方にバリエーションを持たすことが大事になってくる。串本町では、「命ある土からは、優良農産物（元気な野菜）が生まれ、安全で安心出来る食生活を」とゴミ問題の解決と農業振興に取り組んでいる。また、橋本市では、生ゴミから作った堆肥を利用しての「花いっぱい運動」に取り組んでいる。

今後期待される効果

- ・生ゴミの量が減少し、CO₂の排出量が少しでも抑制される。
- ・優良農産物を作ることで安全で安心な食生活がおくれる。付加価値を付けることで商店（シャベローゼなど）でも小売りができる。
- ・大勢の方が、この取り組みに参加すれば、遊休農地の利活用にもつながる。
- ・「花いっぱい運動」等の盛り上がりがあれば「花のまちごぼう」をPRできる。

平成17年度の活動経過

平成17年

4月18日 **市長への活動報告と懇談会** 市役所3F会議室

委員13名出席

5月25日 **第1回会議** 市役所3F会議室

委員10名出席

「グループ分けについて」「今年度の活動の柱を決める」

グループ分け

Aグループ

「少子高齢化社会への対応」

「ひとづくり・教育・モラル」

Bグループ

「地域資源の発掘・都市との交流・外から来た人にやさしいまちづくり」「市街地・商店街の活性化」

Cグループ

「ゴミ問題(きれいなまちづくり)」

「まちづくり支援の仕組みづくり」

活動の柱

- 1) あいさつ運動
- 2) 子育て支援、教育問題について検討(いこらDEソーラン含む)
- 3) 高齢者対策についての検討
- 4) 紀州鉄道の活用
- 5) 市内探索マップの作成
- 6) ごみ対策

6月6日 **あいさつ運動**

6月10日 **第2回会議** 中央公民館2F会議室

委員16名出席

「グループ討議」「全体会」

・いこらDEソーランの普及について

・あいさつ運動について

6月30日 **市老人クラブ連合会理事会へあいさつ運動ワッペン贈呈**

7月1日 **第3回会議** 中央公民館2F会議室

委員15名出席

「6種分別の現状について」の研修会

講師 御坊市役所環境衛生課 山本課長、藪中係長

「いこらDEソーラン」レッスンビデオ鑑賞

「御坊の魅力について」の研修会

講師 わいわいGOBO 塩路 正委員

- 7月 4日 **あいさつ運動**
- 7月17日 **クリーン作戦**
 (場所 御坊中学校、日高高校付近)
- 7月31日 **環境講演会「生ごみ分別収集堆肥化を考える」**
 中央公民館 参加者35名
 第1部 講演「しあわせの種まき」
 講師 串本町在住 尾鷲 梓さん
 第2部 講演「生ごみ分別収集について」
 講師 ふるさと椿会
 植田節子さん、柳岡克子さん、田淵和美さん
- 8月 8日 **第4回会議** 中央公民館2F会議室
 委員9名出席
 「グループ討議」「全体会」
 Aグループ
 ・いこらDEソーランのビデオ配布の仕方について
 Bグループ
 ・寺内町を中心に散策する計画。
 Cグループ
 ・環境講演会のまとめ
- 8月 8日 ~ **いこらDEソーランのレッスンビデオとテープの貸出始める。**
- 9月 9日 **第5回会議** 中央公民館2F会議室
 委員10名出席
 「次世代育成支援行動計画について」の研修会
 講師 御坊市役所社会福祉課 出口課長、南係長
- 9月15日 **まちかど発見、散策ウォーク(旧御坊町内)**
 委員11名他5名参加
- 10月 3日 **あいさつ運動**
- 10月11日 **県福祉事業団との意見交換** ホットハウス
 委員4名参加
- 10月14日 **第6回会議** 市役所3階会議室
 委員13名出席
 「都市計画マスタープランについて」
 講師 和歌山大学システム工学部教授 濱田学昭先生
 「4月から9月までの取り組みについて」
- 11月 7日 **あいさつ運動**
- 11月20日 **北吉田区婦人会「生ゴミ堆肥化講演会について」わいわいGOBOがコ
 ーディネート** 委員2名出席
- 11月25日 **第7回会議** 市役所3階会議室
 委員14名出席

- 「紀州鉄道をテーマにしたまちづくりについて」
紀州鉄道株式会社御坊事業所 菱田所長
紀州鉄道に対してアイデアを提案
- 「先進地視察について」
- 1 1月26日 「まちかど発見、散策ウォーク」(湯川町小松原)
委員7名他1名参加
- 1 2月 5日 **あいさつ運動**
- 1 2月13日 **第8回会議** 市役所3階会議室
委員11名出席
「まちかど発見、散策ウォークのまとめ」
「先進地視察について」
- 平成18年
- 1月16日 **第9回会議** 市役所3階会議室
委員8名出席
紀州鉄道株式会社御坊事業所長よりアイデアに対する文書で回答あり
「第4期のまとめについて」
- 1月22日 **先進地視察**
委員8名参加
視察先：願泉寺・感田神社(貝塚市)、興正寺・杉山家(富田林市)
・語り部の案内による寺内町散策
・語り部養成講座について
・ボランティアガイドの取り組みについて
- 2月 6日 **あいさつ運動**
- 2月21日 **第10回会議** 市役所3階会議室
委員14名出席
「先進地視察の報告」
「第4期のまとめ」
- 3月 4日 **熊野区婦人会「生ゴミ堆肥化講演会について」** わいわいGOBOがコーディネート 委員3名出席
- 3月 6日 **あいさつ運動**
- 3月 6日 **シャベローゼにて、わいわいGOBOで提案のあった紀州レンジャーグッズの販売を開始**
- 3月17日 **第11回会議** 中央公民館2階会議室
委員11名出席
「第4期のまとめ」

委員のおもい

あいさつ運動の推進

- ・現在、多発する子どもにかかわる事件や非行の低年齢化などの防止策として基本になるのがあいさつだと思います。あいさつは人の心を開くものです。子どもはもちろん大人も心を開き合い地域でのつながりや絆を深めることは本当に大切な事だと思います。そして、将来的にもきっとまちづくりに役立つ事と思います。
- ・隣、近所が気軽に話しあえる雰囲気を作れればと思います。
- ・あいさつ運動は続けるべき。(あいさつをするとお互いに明るくなれる。意思の疎通が出来る)
- ・あいさつ運動の継続については、一人一人を誘い、活動の和を広げる方法と他の団体と連携を深める方法があると思う。
- ・名田地区で1年間通して、補導委員の方が協力してくれ広がりをもてた事が良かった。
- ・藤田小学校で老人会の方々が休みなく、わいわいGOBOのあいさつ推進日の第1月曜日にあいさつ運動を続けてくれた。
お年寄りの元気にもなっているみたいで無理のない形で今後も続けていってもらえると思う。
あいさつ運動を継続するには、今以上に町内会やPTAなどをまきこんだ運動にすればと思います。
- ・無理をせず、参加出来る人を中心にあいさつ運動の輪を広げていく。
- ・あいさつ運動を継続するには、地域の方で広げていくにはどうしたら良いかを話しあう事です。そういう事を話し合えば目標が見えてくる。
- ・御坊小学校では、わいわいGOBOの他に御坊補導委員会が、毎月第2月曜日にあいさつ運動を行なっている。
- ・老人会、デイケアサロンなどのボランティア団体の組織に対して我々がどう広げていけるか。
- ・今後も月に1回のあいさつ運動は続ける。わいわいGOBOがPTA、老人会などの各種団体にあいさつ運動をつなげていってもらえる声のかけ方をしていかなければならないのではないかと思う。
- ・各小学校区でPTA、老人会、婦人会など諸団体と共同してあいさつ運動を進める。
- ・老人会に協力してもらって、登下校時間に家の近くに立ってもらおう。
- ・高齢者の活用。小学校の登下校時、腕章をつけた高齢者達が、通学路を散歩するように働きかける。
- ・学校、幼稚園、老人会等の間を取るのが行政の仕事。
- ・ワッペン・たすき・のぼりでも良いが何か道具があれば、私達はあいさつ運動しているという気持ちを持ち、あいさつ運動に参加しやすい。
- ・あいさつ運動のワッペンを作成して、市の老人会へあいさつ運動の協力を呼びかけた事が良かった。

- ・幼稚園、小学校の生徒に対して、あいさつ推進ポスター、標語の募集。

ソーラン踊りでまちおこし

- ・とにかく元気になれる事。これからも小学校や中学校などでもどんどん取り入れて頂き、元気なまち御坊になればと思います。踊 run 屋というサークルが出来ている様に継続には問題ないと思いますが、これからもいろんなイベントなど発表できる機会をたくさん提供し、また他にもいろんなクラブが出来れば、尚一層活発になると思います。
- ・いこら DE フェスティバル実行委員会が4月23日に御坊小学校でいこら DE フェスティバルを開催する。そこでソーラン踊りを知ってもらい広がっていけば。
- ・いこら DE フェスティバルの成功を。
- ・いこら DE フェスティバルが立ち上がり、民間リードで行政もそのウェーブに乗って欲しい。
- ・いこら DE ソーランの普及を。
- ・いこら DE ソーランのテープとレッスンビデオを持って、学校で運動会、文化祭などで取り組んでもらえるよう個人的にもお願いに行きたい。
- ・子ども、大人が共に汗をかける。夢中になれるもの等をふまえ誕生したのだから、いこら DE ソーラン、御坊のオリジナル踊りとして、公民館事業の中で講習レッスンを開催してもらえないか。

地域資源の発掘（御坊の良い所を探す）

- ・寺内町をいかしたまちづくりの取り組みについては、商工振興課、企画課、教育委員会が連携して、行政の方でも窓口を開設してほしい。
- ・市内の散策マップの作成については、わいわい GOBO で出来なかったが、御坊を宣伝するためにも市役所の方でも考えて頂きたい。
- ・寺内町を中心とした歴史とまちなみを中心とした散策マップの作成。
- ・まちかど探索で語り部の案内で旧御坊町内を散策して、新しい事が発見できた。御坊というまちが昔からの古い物がたくさん残っているまちであったという事がわかった。
- ・語り部の養成が必要。
- ・語り部養成講座を開催し、語り部を養成する。（シルバー人材や団塊の世代の活用）
- ・語り部養成講座を和歌山大学の先生に協力してもらっては。
- ・語り部ボランティアの組織を作っては。
- ・御坊のまちなみウォーク等を開催し、まちを知る機会を増やす。
- ・文化財的建築物の指定。
- ・伝統手工芸者の養成（人形、和紙、ろうそく、わら細工、陶器等）
- ・紀州鉄道をもっと売り出す。
- ・紀州鉄道を活かしたまちづくり（紀州鉄道ファンクラブ等）
- ・花一杯運動（下川流域・日高別院境内・JR御坊駅）

- ・個人的には商店街の活性化をもっと取り組みたい気持ちもありましたが、わいわいGOBOより提案された貴重な意見を参考にし、これからの商店街活動に役立てる様にしていきたいと思います。
- ・地域のいい所をさがす。そしてアピールする。

生ゴミ堆肥化の推進（きれいなまちづくり）

- ・生ごみの堆肥化についての研修会「環境講演会」をわいわいGOBOが主催し、ふるさとつばき会の取り組みを聞いて、自分の町内会でも取り組めると思い、ふるさとつばき会の指導を受けて、現在、新町の方でも取り組みはじめた事が良かった。
- ・生ゴミから堆肥をつくる「生ごみ堆肥化のマニュアル」が出来たのが良かった。
- ・生ごみ堆肥化に取り組んでいる「ふるさとつばき会」の活動を皆さんに知ってもらうため、「ふるさとつばき会」をコーディネートしていくことがわいわいGOBOの役割であった。今後も継続していけばもっと前に進むであろう。
- ・「ふるさとつばき会」は、自分達から活動の説明には行かないが、活動について知りたいから説明に来てもらえないだろうかという声がかかれば、説明に来てくれると言っている。
- ・今後も生ゴミの堆肥化について、PRする。
- ・生ごみ堆肥化を実践する所を広げる。
- ・生ごみの堆肥化は、今後は全町内会へも広げていければ、ごみの減量化につながるのではないかと。
- ・堆肥化された肥料の受入先をみつけるのも大事。
- ・わいわいGOBOで生ごみ対策に取り組めて良かった。
- ・わいわいGOBOでクリーン作戦を実施出来たのが良かった。
- ・市の広報誌などで、ごみを減らす運動を呼びかけて欲しいと思う。
- ・環境衛生課の職員の方が、生ごみの大半は水分で、ぎゅっと絞るだけでごみの減量につながると説明してくれ、その内容が新聞に掲載された。一人一人が家で注意すれば出来ることなので市の方でも広報誌等で啓発を続けて行って欲しい。
- ・ごみをばい捨てしない。自分のごみは自分で持って帰るという事を市の方で啓発して欲しい。
- ・下川をきれいにするために。
 - 河川監視パトロール制度の運用。
 - ポイントに網を架設して定期的にゴミを回収する条件整備。
 - 流域河川愛護会と町内自治会の自主的・意欲的な活動を誘導するため、きめこまやかな条件整備を行う。
 - 下川に限定したポイ捨て禁止条例を制定して不法投棄を追放する。
 - 下川ラブ・フェスティバルを毎年開催する。

その他

- ・全体的な事であるが、まちづくりについて、行政的な目でなく市民の目から見た意見や考えが多くてたのが良かった。
- ・パートナーシップの構築というのが、御坊市で取り組めた事が良かった。今までになかった型で、委員みんなが参加出来るという市民参加型が良かった。
- ・あいさつ運動、生ごみ堆肥化をはじめ、色々な事に取り組めた。ひとりで思っても何も出来ない。人のつながりが出来て、みんなで取り組めた事が良かった。
- ・御坊を良くしたいと思う人たちと知り合えたことが良かった。
- ・わいわいGOBOは、いろんな方々の集まりで、いろんな視点からのまちづくりがあるのを実感できました。また各自がこの御坊を良くしていこうと本当に真剣にそして積極的に取り組みたいという思いを感じました。しかし反面、グループ分けを行なってもなかなか意思の統一をはかれなかったのも正直な思いです。
個人的には、今までに知らなかった御坊という街を知る事ができ大変貴重な経験や勉強をさせて頂いたと思います。
- ・今後、各個人がやりたい活動をやっていくことになると思いますが、定期的に「こんなことをやっています」とか「こんなことが悩みなのでよいアドバイスはないか」といったことが話し合える場があると良いと思います。
- ・わいわいGOBOは、御坊を良くしたい人の集まりなのでなくなるのは大変残念ですが、人と人のつながりがなくならないようにしたいです。
- ・各グループの取り組み（あいさつ運動、市内探索、ごみ対策等）をいかに続けるかが問題。
- ・一人一人が力をつけていかなければいけないと思うし、行政も市民の活動の支援が必要だと思う。具体的には、 場所の確保 一般への広報 需要と供給をつなげる役割など「市民活動課」のようなものが必要だと思う。

川と海と山に抱かれて御坊のまちはある。

永い歳月をかけてまちが築かれ、生活が積み重ねられ、生き生きとした繁華なまちとなった。早春から盛夏にかけてのまちは特に生き生き感がある。

積み重ねの歴史の中に近年の御坊がある。

まちを訪れるようになった、ここ5年から6年間の中心部は、個性的なお店が出現し、生き生きと変貌している。

街並の変貌に負けずに、暮らす人のまちづくりも「生き生きとしよう」などと、ここ数年間まちづくりに取り組んだ組織「わいわいGOBO」が、今年度にて組織としての活動を閉じることとなった。

小中学生への挨拶運動、まちの清掃、若者参加への踊り、観光・散策のまちマップづくりなどの活動は素晴らしいものであった。組織への期待は少なくないので、惜しい限りである。

魅力的なまちは一朝一夕に出来るものではない。

積み重ねが魅力を輝かせる。生き生きとした輝きをつくり、保つためには持続的な取り組みがいる。

まちづくりは、親から子へ、子から孫への世代間の駅伝である。まちへの意欲をしっかりとバトンタッチして繋ぐ必要がある。

わいわいGOBOは組織としては終わるが、まちづくりは代代繋がり、世代を越えて励ましの声を掛け合い、太陽に輝く春の海ようなきらきらとしたゴールを目指して欲しい。

まちづくり会議わいわいGOBO

アドバイザー 濱田 学昭

(和歌山大学システム工学部教授)

まちづくり会議わいわい GOBO に参加して

第1期から公募の委員として参加させてもらって4年、とても充実した時間を送れたように思います。第4期ではまことに僭越ながら会長という大役も受けさせてもらい、微力ながら精一杯がんばらせてもらえました。

私は、御坊で生まれ御坊で育ちながら、あまり御坊の良さを知らなかったように思います。御坊には美しい自然や歴史を通して大切にしてきた文化があり、資源豊かなまちなのです。その自然と伝統や歴史を後世に伝えたり、外から来た人に案内できる人材を育てることの大切さを散策活動などいろいろな研修をともにしていく中で、あらためて学ばせていただいたように思います。

市民憲章の第1章にもうたわれているように、生きがいのある住みよいまちをつくるため、「自然を守り育て、ごみのないきれいなまちをつくります」ということを活動の一つとして実践できたことは、とても意義深いことでした。

「子どもたちを元気に！御坊を元気に！」という主旨に賛同した市民が実行委員会を立ち上げ、ソーラン踊りを中心にした「いこら DE フェスティバル」が開催される運びになったことも大きな飛躍で、市の活性化につながる継続した行事になればと思います。

あいさつは、だれでもどこでもいつでもできることです。市民が気持ちよく出会い、人が人としてあるべき基本です。まず、子どもたちからと学校でのあいさつ運動に取り組んできましたが、地域が子どもの成長を暖かく見守るまちでありたいと願います。そして大人も子どもも元気よくあいさつができるまちになるよう、市民ひとりひとりがこの運動を実践、継続していただけたら幸いです。

まちづくり三法が近く改正され、まちが活気を取り戻せるかどうかは定かではありませんが、法律が変わっても、住んでいる市民の意識が変わらなければ変わらない部分も多くあります。また、変えてはいけないものも大切に守り残していかなければなりません。人がまちをつくり、まちが人を育てる。人と人の結びつきの中から、心と心がつながり、人は一人で生きているのではないことに気づくのです。

私たちは、できたこと、できなかったことなど様々な思いを胸にまちづくり会議わいわい GOBO を卒業します。会の形は変わろうとも、これからの世代に輝かしい未来を残していけるよう模索し、御坊のため活動できるようがんばりたいと思います。ふるさとに誇りと自信をもって御坊を語れる市民が増えることを祈り、御坊の発展を願ってやみません。

私は、まちづくり会議わいわい GOBO で多くの仲間に出会え、多くの皆様に支えられ、わいわいがやがや話し合えたことに感謝します。

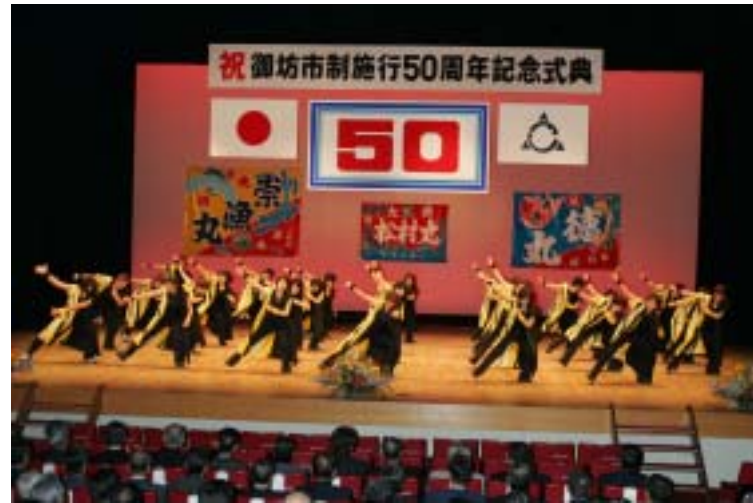
本当にありがとうございました。

まちづくり会議わいわい GOBO
会長 柳岡 克子

まちづくり会議わいわいGOBO 委員名簿

会 長	柳 岡 克 子
副会長	岡 本 行 弘
委 員	古 久 保 勉
	溝 口 勝 己
	宮 井 隆 男
	西 典 正 子
	塩 路 正 子
	柏 木 明 治
	林 拓 三 史
	岡 田 敏 忠
	岡 田 敏 忠
	湯 川 惠 子
	福 田 惠 子
	白 井 忠 臣
	中 岡 保 浩
	佐 藤 浩 知
	楠 岡 稔 雄
	田 口 秀 雄
	古 山 隆 生
アドバイザー	濱 田 学 昭 (和歌山大学システム工学部教授)
	林 守

わいわいGOBOの活動



環境講演会



市内で生ゴミ堆肥化に取り組んでいる「ふるさと椿会」の活動報告



生ゴミ分別堆肥化について
串本町在住の尾鷲梢さんの講演

まちかど散策(旧御坊町)



寺内町を散策、御坊の魅力発見



まちかど散策(湯川町小松原)



湯川神社と宿場町であった小松原周辺散策



先進地視察(貝塚市・富田林市)



ボランティアガイドさんの案内で
寺内町のいかしたまちづくりを視察

